

グランドアイランドセントラル学区
COVID-19 再開計画
草案
2020-2021 要約版

コミュニケーション/家族とコミュニティの関与

トレーニングと標識

学区は、児童生徒、教職員、スタッフ、訪問者が手指の衛生、呼吸の衛生、社会的距離、COVID-19の兆候と症状、および個人用保護具（PPE）の適切な使用法を忘れないようにするために標識を準備し、目につきやすい場所に掲示する。職員は、上記について継続的に想起させるためトレーニングビデオやバーチャルプレゼンテーションを作成し使用していく。グランドアイランドセントラル学区（GICSD）は、ウェブサイトまたはその他のリソースを通じ、児童生徒、教職員、スタッフ、保護者、およびその他の訪問者が、これらのセッションをバーチャルに、または直接行うことができるように準備する。

保護者と児童生徒への通知

学区は保護者と児童生徒に、以下の COVID-19 に関する情報を含むガイダンスを提供する。この情報の普及は、教育の形式（対面、ハイブリッドモデル、または遠隔学習モデル）に依存し、保護者の母国語で提供される。

- 症状を発症した場合、クラスやその他のアクティビティを休み、どのくらいの期間家に留まるべきか
- ウィルスへの曝露が疑われる場合にすべきこと
- 児童生徒の検査結果が陽性だった場合の隔離の詳細、またいつ登校できるか
- 誰かに感染、発症疑いがある場合の対処方法

更新：2020年7月30日9ページ

- 児童生徒の健康状態をモニターする方法
- 新しい手続きやタイミングの更新などを含め、秋に学校に戻ることを許可する時期と方法
- 校内で感染、集団感染があった場合はどうするか
- 学校の閉鎖を決定するための基準を含む、学校閉鎖の実施方法
- 特別なケアを必要とする児童生徒が取るべき追加措置、および/または追加オプション
- 校内での新しい社会的距離/PPEプロトコルとは何か、またこれらのプロトコルに従わなかった場合の処置方法
- 作業スペース/教室/共用エリアの清掃/消毒方法

健康と安全

対面指導、ハイブリッドモデル、または完全な遠隔指導の必要性について学区が判断するのに役立つため、NYSED（NY州教育局）の学校再開ガイダンスに従い、学区は建物の安全な収容能力、利用可能なPPEの量、および地域の病院の収容能力（エリー郡保健局との協議により決定）を継続的に監視するものとする。

目的：上記プロトコルの目的は、児童生徒、教職員、および学校のコミュニティに対する COVID-19 ウイルスのリスクを削減しながら、通常通りの学校環境での教育の実践をサポートすることである。

指導原則：

- A. **安全性** — すべての手順とプロトコルは、行政の指示に従い、すべての児童生徒、教職員、コミュニティ全体の健康と安全をサポートするために設計しなくてはならない。
- B. **包括性** — すべての手順とプロトコルは、経済的に不利な立場にある、または特別なケアを必要としていたり特定の医療やメンタルヘルスの必要性を持つ児童生徒に対する考慮を十分にその中で説明する必要がある。
- C. **柔軟性** — すべての方針、手順、プロトコルは、持続可能性を確保した上で開発されるべきであり、環境の変化に適応する必要がある。
- D. **コミュニケーション** - コミュニケーションはオープンにし、教職員、スタッフやコミュニティと頻繁に行う。公立学校の教育計画は学校コミュニティに周知されなくてはならない。

I. 健康診断と病人の管理

健康モニタリングとスクリーニング

学区は、COVID-19 の感染リスクを減らすために適切な安全対策と措置をすべて講じるが、学校での COVID-19 感染のリスクをゼロにすることは不可能と言えるだろう。

子どもの COVID-19 の症状は大人と似ているものの、常に同じであるとは限らないことに注意する。子どもは最初の症状として発熱することが少なく、消化管の症状のみを示す可能性がある。この点について、スクリーニングプロセスで考慮する必要がある。

体温が 100.0°F を超える場合、児童生徒は学校に通えない可能性がある。ウイルスへの曝露後 2~14 日で現れる症状に関する CDC ガイダンスを参照する。これらの症状がある場合 COVID-19 に感染している可能性がある：

- 咳
- 息苦しさ または呼吸困難
- 発熱
- 寒気
- 筋肉の痛み
- のどの痛み
- 味または匂いを感じなくなる

以下を含む一般的ではない症状も報告されている：

- 吐き気
- 嘔吐
- 下痢

校舎全体とその他の施設に標識を掲示することで、教職員と児童生徒が COVID-19 の症状を忘れず、常に監視できるようにする。症状のある職員と児童生徒は、校内の看護師または指定された職員のもとへ送られる。

A. COVID-19 ウイルスの兆候と症状に関し、学区はすべての家族、教職員、スタッフに情報を提供する。

1. 情報提供は毎月、次の方法で行う—手紙（今年度）、学区全体への電子メール（毎月）、ウェブサイト（毎日）、または学区全体へのテキスト（ショートメール）。
2. 症状のある児童生徒は、学校を出る前に看護師に報告しなければならない。
3. 家族に伝えられる情報は母国語に翻訳されなければならない。

B. 学区では、毎日の健康スクリーニングを導入する。家を出る前、またはスクールバスに乗る前に、児童生徒に代わって保護者が行う。

C. すべての個人は、家を出る前、バスに乗る前、または学校の施設に入る前に、毎日自宅で体温を測定する必要がある。

1. 校内で

a) 生徒の体温が 100.0° F を超えていたり、COVID-19 の症状を示している場合

(1) 児童生徒は、保健室内の指定された場所に隔離され、またフェイスカバーを使用する必要がある（呼吸を阻害しない場合）

(2) 児童生徒一保護者に対し、子どもを迎えに行くよう直ちに通知。可能であれば、保護者の車まで児童生徒に付き添わなければならない。4 日以上欠席している場合、学校に戻るには医師からの書き置きが必要となる。

(3) 地域の保健当局またはプライマリケア医師（保健所、または地域の医療施設など）の診察を受けるのに必要な紹介状は、学校の保健室から配布される。

b) 隔離後、児童生徒は

2. 学校を欠席

a) 児童生徒は自宅に留まり、症状がなくなり、また最後に薬を服用してから 24 時間以上経過するまで学校に戻ってはならない。児童生徒が 4 日以上欠席した場合、学校に戻るには医師の書き置きが必要となる。

3. COVID-19 検査の陽性反応および/または COVID-19 ウィルスへの曝露の報告

a) 児童生徒または訪問者の COVID-19 検査結果が陽性であり、学校が保健所、個人、または家族から通知を受けている場合；学校の看護師はすぐに校長に通知する。

(1) 校長または本人が、学区の学校保健局長（Daryl Ehlenfield 博士）およびエリー郡保健局に通知

(2) 学区保健局長は直ちにエリー郡保健局に通知

(3) 校長および、または本人が、児童生徒生活安全課の副課長（Cheryl Cardone）および学区長（Dr. Brian Graham）に通知

b) 学校長または本人は、最後の出席日のスケジュールを把握し、学校での児童生徒の接触者の追跡を開始。この情報は保健所が利用できるようにする必要があるが、同時に、機密性を確保するためあらゆる努力を怠ってはならない。

(1) 正確な出席状況を毎日必ず把握する。

(2) 学校に戻る。

(a) 陰性の COVID-19 検査結果を示す医療従事者の文書、症状の消失、隔離からの解放

(b) 児童生徒は、症状がなくなり、発熱がなく、発熱を抑える薬の服用を行わなくなってから 3 日後に学校に戻ることができる。

G. 訪問者

健康に関する理由、下校時刻の繰り上げ、または報告済みの予約があるなどの緊急の目的でない限り、すべての訪問者は建物への立ち入りが制限され、立ち入り時には運転免許証を提出し、健康アンケートに記入することとする。

H. 接触者の追跡

a. **COVID-19 検査で陽性の場合はどうなるか？** COVID-19 と診断されたエリー郡の居住者である場合、エリー郡保健局（ECDOH）の接触者追跡の担当者が電話で診断を確認し、誰と接触したかについて話し、また自宅で

自主隔離するように依頼。担当者は、隔離には何が伴うのかを説明し、家庭について、また家族からどれほど隔離できるかについて質問する。

- b. **接触者の追跡**は、COVID-19感染者が接触した個人を特定し、隔離の必要性についてアドバイスし検査を提供するために行われる。
- c. **隔離**—一家の中の特定の部屋で過ごし、家族から離れ、可能であれば別のバスルームを使用することを意味する。食料品、医薬品、その他の基本的なニーズなど、隔離するにあたり助けが必要な場合は、ECDOHからサポートを受けることができる。隔離は自宅待機に似ているが、COVID-19感染者と確定された個人が隔離されるのに対し、感染しやすい時期にある感染者と接触しウイルスに曝露している可能性がある場合は自宅待機となる。
- d. **濃厚接触者**—COVID-19の症状が出始める48時間前から、無症状の場合は検査2日前からの間に、感染者との距離6フィート以内に少なくとも10分間いた人のこと。COVID-19感染者の濃厚接触者となった場合、ECDOHの保険局員が、ウイルスへの曝露の可能性のあることを知らせるために電話をすることがある。その場合は自宅待機するようとの指示がある。
- e. **自宅待機**—自宅で過ごし症状を注視すること、社会的距離を維持すること（常に家族から少なくとも6フィート離れていること）。それは、家庭内で非曝露者の家族やペットから離れた特定の部屋に留まり、可能であれば別のバスルームを使用することを意味する。
- f. **機密性**—ECDOH接触追跡担当者と共有される医療情報は機密情報として保持される。

I. グループ分け（コホート）

- COVID-19が発生した場合にウイルスに曝露する可能性のある児童生徒の数を最小限に抑えるため、エレメンタリースクールではできる限り、一日中児童のグループ分けを保つよう目指す必要がある。ミドル、ハイスクールの教員は、可能な範囲でクラス内の一貫したグループ分けを維持するよう努める。児童生徒をグループに分ける際には、以下についての考慮がなされる。
- 子どもの私物は、常に他の子のものとは分け、ひとつずつラベルを付けて容器、棚、または専用のエリアにしまう。可能であれば、電子機器、おもちゃ、本、その他のゲームや学習の補助をするものを共有しないようにする。共有するものは専用のエリアに配置する。
- 教室には、接触頻度の高いもの（アート、音楽の用具や器材、テクノロジー機器、一般的な教室用品）の共有を最小限に抑えるため十分な量を用意する。もしくは用具および器機などを使用するのを一度に1グループの子どもに制限し、使用と使用の間に掃除、消毒を行う。

II. 健康的な衛生習慣

1. 衛生習慣について以下の場所に掲示する。

- a) 出入口
- b) トイレ
- c) カフェテリア/教職員ラウンジ
- d) 教室
- e) オフィス
- f) 講堂
- g) 用務員の使用するスペース

- 2.の手洗い休憩の定期的スケジュール 教員とスタッフは、学年の初め、そして一年を通して定期的に、すべての児童生徒の適切な手指と呼吸の衛生を強化していく。手指と呼吸の衛生、フェイスカバーについてのプロトコル、社会的距離、およびその他の公衆衛生に関するトレーニングを児童生徒とスタッフが利用できるようにする。
3. 学区は健康な手指と呼吸衛生をサポートするため、石けん、少なくとも 60%のアルコールを含むハンドサニタイザー (FCNYS 2020 セクション 5705.5 に準拠、ハンドサニタイザーを安全に使用できる年齢の児童生徒と教職員用)、ペーパータオル、ティッシュ、裏地のついたゴミ入れを十分に供給、および維持していく。
4. 水飲み場—給水機能のない水飲み場は可能な限り使用不可とする。児童生徒は、給水所で持参した水筒に水を補充することができる。

III. 社会的距離

A. 6 フィート以上の適切な社会的距離を維持するため、以下のガイドラインが実施される。

1. 登校時、正面玄関の混雑を減らすためバスから下車する場所をずらす。
2. 下校時には、児童生徒は廊下の混雑を減らす方法で教室から出る。
- 3.ロッカーの使用は可能な限り減らす。
4. 教室の窓とドアは可能な限り開けておく。
5. 体育の授業は可能な限り屋外で実施。有酸素運動を行う際は、12 フィートの距離を維持するしなければならない。不可能な場合には、児童生徒はフェイスカバーを着用すること。
6. バンドとコーラスは 12 フィートの距離を維持しなくてはならない。不可能な場合、児童生徒はフェイスカバーを着用すること。

B. 社会的距離を維持するのが不可能な場合は、各人マスクを着用しなくてはならない。

1. これは体育の授業、コーラス、バンド、オーケストラを含む。

C. 火災訓練/ロックダウン訓練

1. 学区では州法に従い 8 回の火災訓練と 4 回のロックダウン訓練を実施する。

a) 火災訓練は教室やゾーンをずらして行う

b) ロックダウン訓練は予定された時期に実施するが、児童生徒は席を離れずに行う。各教室では、実際にロックダウンが発生した場合の実際の手順について児童生徒に説明する。

IV. PPE (個人防護具)、フェイスカバー

大統領令 202.17 および NY 州保健局 (NYSDOH) のガイダンスによると、2 歳以上で医学的に顔を覆うことができる個人は、公共の場において、社会的距離を維持できない、またはしていない場合、鼻または口をマスクまたは布で覆う必要がある。

A. すべての者は、学校の建物内において、適度な社会的距離/バリアを維持できない場合は、適切なフェイスカバー/マスクを常に着用する必要がある。

1. 学区は、各教職員に適切なフェイスカバーとフェイスシールドを提供する。

2. 特別なニーズのある児童生徒の両親、または医学的に虚弱な児童生徒で、適切に顔を覆い、適切な社会的距離を維持できない、また手指や呼吸器の衛生状態を保つのが難しい場合、児童生徒の健康と安全を確保しつつニーズを満たすため、医療従事者と協力して最善の対応をする必要がある。顔を覆うことで身体的または精神的健康を損なう可能性のある児童生徒を含め、医学的にフェイスカバーを着用できず、その旨を医師からの文書で提出した児童生徒は、

フェイスカバーの着用は必要ないものとする。バスは教室の延長とみなし、上記のケースにあたる児童学生は、フェイスカバーをするよう強いられたり、バスの乗車を拒否されることはない。

3.透明なフェイスカバーはより多くの視覚的な役割を持つため、低年齢の児童、聴覚障害のある児童生徒、その教師にとって通常のフェイスカバーの代わりとみなす。例として、学区では唇や口の動きの視覚化を必要とする治療やサポート（言語療法など）の際、代替品となる PPE（口または口の周りが透明のフェイスシールド/マスク）を提供する場合があります。これらの代替品は、教師の顔をより多く見ることによって理解が深まるといった特定の生徒（聴覚障害など）にも使用することができる。

4.児童生徒や教職員、スタッフは、カフェテリアで食事をする際に顔を覆う必要はない。

5.バリアが用意されている場合であっても、すべての人が常にフェイスカバーを着用する必要がある。

a) カフェテリアでの食事中を除く。

b) 可能であれば、教室で適切な社会的距離を維持できる場合には、教員は適切な社会的距離を維持しながら、マスク休憩を提供しなければならない。

6.児童生徒と教職員は、廊下を移動したり校内を移動したりするときはフェイスカバーを着用しなくてはならない。

B.すべての教室に手袋の入った箱が提供する。

C.物理的なバリア

1.学区は、児童生徒用の机、教師用の机、事務局、児童生徒用のカフェテリアに物理的なバリアを設ける。

D.スクールバス

1.すべての運転手と助手は、スクールバスの運転中はフェイスカバーまたはフェイスシールドを着用しなくてはならない。また、運転手と助手が手袋を着用することを推奨する。

2.児童生徒はスクールバスに乗っている間、フェイスカバーを着用しなくてはならない。

a) 可能な場合は、同じ世帯の児童生徒と一緒に座るようにする。

E.行動規範

1.行動規範は、フェイスカバーを適切に着用することが義務であるということを反映して作成される。

V. 清掃と消毒

A.保管スタッフ

1. 清掃用品メーカーの Hillyard から、すべての清掃エリアに COVID 対策シートの提供がある。

2.各教室に下記のを備えた消毒ステーションを設置する。

1. Suprax（クリーナー、消毒剤）のスプレーボトル 1 本

2.マイクロファイバークロス（各建物には予備があり毎日洗濯する）

3.ラテックスの手袋

B.各教室/トイレのドアには、消毒を確認するための用紙が取り付けられる。この用紙は各建物に保管され、スキャンして学区長に送られる。用紙のフォルダは確認のため保管される。

1.日中の清掃には、接触頻度の高い場所、保健室、トイレを含む。

a) 追加された作業量をこなすため、ランサムの 3 番目のシフトを削除し、各建物のスタッフの再配置を行い、必要に応じて清掃と消毒の回数を増やす。

b) すべてのトイレ内の衛生用品（ペーパータオルやソープディスペンサーなど）を定期的に点検する。

C. 教室内の取り外せる敷物はすべて撤去する。

D. すべての家具は学区で用意したもの以外撤去する。

E. 効果を最大に上げるため学校全体に手指消毒ステーションを設置する。

F. Protexus 社のコードレス静電気スプレーヤーを各建物に準備し、必要に応じて消毒に利用する。

G. HVAC システムの構築

1. 可能な限り、すべての機器を使い外気の取り入れを 2 倍にする。

2. 空気のろ過には、可能な限り最も効果の高い MERV レートを使用する。

施設と運営

再開前に

再開するに先立ち、学校と学区の運営者は、継続的な感染収束戦略、予防、サポート、およびコミュニケーションのリソースなど学校のプログラムに関する最新のガイダンスを参照する。

- 学区は PPE を既に購入しており、また継続的に入手する計画がある。SED ガイダンスの 33～34 ページに準拠し、建物・敷地課は各学校（シドウェイエレメンタリースクール、ヒュースロードエレメンタリースクール、ケイガバインエレメンタリースクール、ベロニカコナーミドルスクール、グランドアイランドハイスクール）と連携して、十分な個人用保護具（PPE）が日々児童生徒、教職員およびスタッフに提供されるように努める。運営者は、PPE および洗浄/消毒製品の十分な在庫が購入され、この計画に従って提供されていることを確認する。
- 学区は、各施設の全体に、気分が悪い場合は家にいるよう呼びかけ、COVID-19、適切な手指洗いの手順、社会的距離、呼吸衛生、咳エチケット、そしてフェイスカバーを適切に着用する方法について書かれたサインを掲示する。
- 学区は、すべての教職員とスタッフに、安全衛生プロトコルと適切な手指と呼吸器衛生についての遠隔トレーニングを行う。
- 学区は、適切な消毒手順と製品の使用方法について保管および清掃スタッフを対象に、既にトレーニングを行っているが、トレーニングは継続、強化される。
- 学区は、すべての児童生徒を対象に適切な手指と呼吸の衛生、フェイスカバーの適切な着用についてトレーニングし、また家庭で強化するため保護者向けに情報を提供する。

日々の清掃と消毒について

- 児童生徒と教職員、スタッフが学校に戻る前に、すべての建物の徹底的な清掃が行われる。
- 学区は、衛生、消毒の必要条件について疾病管理予防センター（CDC）および NY 州保険局の文書「COVID-19 のエレメンタリーおよびミドルスクールのための清掃、消毒ガイダンス(仮)」に従う。EPA の基準を満たし、SARSCoV-2 に対し効果のある消毒製品を入手し、使用する。
- 各建物全体の清掃と消毒の頻度を特定し、スタッフを割り当てる。保管スタッフは、日付、時刻、および範囲を含む毎日の清掃/消毒ログに記載し、各建物内のファイルに保管する。

- 保管および清掃スタッフは、毎日の終わりに建物の定期的な清掃と消毒を実践する。（トイレ、オフィス、休憩室、教室、および各建物全体にあるその他のスペース）電話、キーボード、タッチスクリーン、ドアハンドル、手すり、コピー機、電気のスイッチなどの接触頻度の高い箇所は、毎日清掃と消毒を行う。

清掃と消毒は徹底的かつ継続的に、最低でも日に一度行う。

- 保管および清掃のスタッフは、日常業務としてリスクの高い場所と頻繁に触れる物の表面（トイレ、カフェテリアのテーブル、ドアハンドルなど）に焦点を当てて、1日を通して定期的に清掃と消毒をする。

- 教職員とスタッフが頻繁に接触する箇所を1日中定期的に消毒するために、消毒製品を建物全体のさまざまな場所に準備する。

感染疑い、および感染が確認された場合の清掃と消毒

保管および清掃のスタッフは、交通量の多い場所や接触頻度の高い物の表面など、露出した場所の清掃と消毒を行う。学区は、「施設の清掃と消毒」に関する CDC のガイドラインに従い、エリー郡保健局（ECDOH）の指示に従う。

以下、手順をあげる。

- 感染者が使用した場所を閉鎖する。
- 外部へのドアや窓を開け、その場所の空気の循環をよくする。
- 24時間（または可能な限り長く）待ってから、清掃、消毒する。
- 感染者が使用したすべてのエリアを清掃、消毒する。

影響を受けたエリアが清掃および消毒が済んだら、エリー郡保健局に相談した後、そのエリアを再開する。

換気

建物・敷地課は、換気システムが適切に作動し、またコントロールされていることを確認する。自然と機械の両方を使い、外気を取り入れ空気の循環を可能な限り増加（2倍）する。建物の適切な換気を実現するシステムの機能を維持するため、HVAC の検査およびメンテナンスのプロトコルに従う。引き続き、ビルディングマネジメントシステム / U&S を使用し、換気の状態をモニターする。また、RP Fedder 社と協力し、機器にダメージを与えず空気を最大限にろ過できるよう努めている。

衛生

学区は、疾病管理予防センター（CDC）と NY 州保健局（NYSDOH）の文書「COVID-19 対策としての公共、民間施設の清掃と消毒に関するガイダンス」と「STOP THE SPREAD」ポスターにある衛生および消毒の必要条件を確実に遵守する。この情報は、学区の医療従事者と運営者が教職員をトレーニングするために使用する。

学区は校内に、石けん、流水、使い捨てのペーパータオル、アルコール入りハンドサニタイザー（アルコール含有量 60%）を備えた手洗いステーション（トイレと各種教室内）など、校内に手指衛生ステーションを準備する。教職員、スタッフ、児童生徒は頻繁に、特に1日の始めと終わり、食事の前とトイレを使用した後には、最低 20 秒間は石けんと水で手を洗うように指導を受ける。正面玄関、共用エリア、教室、およびオフィススペースには、手に目に見える汚れがない限り、石けんと水の代わりにハンドサニタイザーを使用できるよう準備する。

学区は、共有されている機器や備品（コピー機など）の上または近くに消毒製品が配置されるようにする。共有の機器を使用する前に、教職員とスタッフは触れる面を消毒しなくてはならない。また使用後には触れた表面を消毒し、その後、手洗いまたは手指の消毒を実践する必要がある。教職員とスタッフが機器や備品の使用の前後に一度立ち止まって消毒することを忘れないよう、学校施設全体に標識を掲示する。

教職員が頻繁に使用する物を1日を通して定期的に消毒するために、消毒製品は建物全体のさまざまな場所に備えておく。ハンドサニタイザーは、接触頻度の高い物の近くに準備する。校内に汚れた物（ペーパータオル、マスクなど）を処分するためのゴミ箱を用意する。学校施設全体に標識を掲示し、スタッフと児童生徒に正しい手洗い手順を指導し、手洗いや手指の消毒を頻繁に行うように促す。

訪問者

建物（学区事務所、トランスポーテーションセンター、建物・敷地課、エコアイランド、シドウェイエレメンタリー、ヒュースロードエレメンタリー、ケガバインエレメンタリー、ベロニカコナーミドル、グランドアイランドハイスクール）への訪問者を制限する。基本ルールとして、建物は学区の教職員とスタッフ、サービスプロバイダー、建設業者、納入業者、および配達員に限り入ることができる。保護者、建物/教室のボランティア、およびその他のゲストは、はっきりした事情がない限り許可されない。

物理的なスペースについて

学区および教師は、現在の教室のレイアウトを調べ、適切な社会的距離/バリアの制限範囲内で可能な最大許容収容人数を決定し、必要に応じて調整する。改変更新: 7月30日, 2020 Page 23

できるだけ人と人との距離を離して利用することのできるスペースを増やすため、校内のスペース（カフェテリア、図書館、講堂など）でこれまでと違った利用方法を工夫する。

- これらの大きなスペースでは、グループまたはクラス間を離し、一貫したグループを確立することで、スペースを最大限、かつ安全に利用する新しいオプションを作り出すことができる。
- 使用頻度の高いエリアなどでは、テープまたは標識を使って6フィート間隔の社会的距離マーカーを作成する。

建物に関する考慮事項

建物：学区事務所、トランスポーテーションセンター、建物・敷地課、エコアイランド、シドウェイエレメンタリー、ヒュースロードエレメンタリー、ケイガバインエレメンタリー、ベロニカコナーミドル、グランドアイランドハイスクールなど

学区は、児童生徒とその家族がすべての健康方針とプロトコルに関連して新しく求められることについて学び、また携わっていくことを確認する。コミュニケーションプランには、補足の文書（ハンドブックなど）を使用したビデオプレゼンテーションと、新しい方針と手順を確認するため年度の初めに行う健康と安全のためのプロトコルの指導と、頻繁なリマインダーを含む。

- 感染の拡大を防ぐため、各エリアを誰が使用しているかを把握する。
- クラブ、ビフォーまたはアフタースクールプログラム、スポーツチーム、またはその他の外部グループが学校のスペースを使用する場合に対処するため、一貫した方針を作成する。
- YMCA アフタースクールケアプログラムには、学校と同じ手続きが必要となる。参加児童生徒はフェイスカバーを着用し、社会的距離をとるよう注意する。プロトコルおよび何が求められているかについては、学区事務オフィスを通じて共有および承認されなくてはならない。

登校と下校について

- 保護者は、学校の開始時刻前に児童生徒を車から降ろしてはいけない。
- 保護者が送り迎えする際は、各建物の外の指定された場所で、教職員/スタッフのガイドラインに従い調整、実施される。
- 保護者の送り迎えが増加することが予測されるため、対応して車の流れを考慮する。

- 指定されたエリアで一度に児童生徒を降車させるバスの数に制限を設ける。
- ビフォーまたはアフタースクールのアクティビティを制限し、消毒と新しい健康と安全のプロトコルとスケジュールの指導の時間を確保する。
- 児童生徒は、教室に到着した旨を報告する。
- 朝食が必要な児童生徒は、指定された時間に保護者のドロップオフエリアまたはバスループでスタッフから指示を受け、建物に入り食事を受け取ることができる。
- 教職員は、登校および下校時刻に児童生徒のロッカーの使用を監視する。
- 保護者が下校時刻以外に子どもを連れ帰る場合、手続きは目的に応じて保健室またはメインオフィスで行う。
- 保護者が子どもに届け物をしてよいのは、緊急事態のみとする。

教室の構成

- 教室のレイアウトを決定する際は、可能な場合は6フィート離し児童生徒のワークステーション間の社会的距離を最大化する。机は同じ方向を向くようにする（向き合うようにしない）。6フィートの物理的なスペースを他の児童生徒から維持できない場合はフェイスカバーを着用する必要がある。
- テーブルは、片側にのみ座ることができる。
- 児童生徒の教室のスペースを最大化するため、必要があれば教材の保管スペースは他のスペースを工夫して作る。
- 標識を利用して社会的/物理的な距離を説明する。
- 健康と安全の条件が整い物理的にスペースがある場合は、屋外で授業をする。
- クラスの cohorts（グループ）が手洗いステーションに行きやすいようにし、また、使用したスペースを毎日、またはグループとグループの使用の合間に拭くためのハンドサニタイザーのディスペンサーにすぐ手が届くようにする。
- 特別授業（アート、体育、音楽、図書室など）は、社会的距離のガイドラインに従い、教室の準備とプロトコルを決定する。
- 児童生徒が社会的距離を保ちつつ「マスク休憩」をとれる場所を指定する。
- 指定されたすべての教室には、マスクに加えてフェイスシールドを準備する。
- 「cohorts」とは、児童生徒と教育者のグループまたはチームであり、そのメンバーは変わることなく終日一緒に過ごすことになる。
- 可能な場合は、児童生徒のグループではなく、学科の教員を交代させるようにする。
- cohorts同士が接触する可能性のある場所では、フェイスカバー着用の厳密な監視、手洗い、cohorts間の消毒など、他の安全対策を最大限に活用します。
- cohortsには特定の入口と出口が割り当てられ、日々一貫して同じ場所を使用する。
- 主な使用を単一のcohortsまたは一貫したcohortsのグループに制限することが可能な場合は、トイレ、教室、屋外のスペースの割り当てについても同様の方法が実施される。

トイレ設備プロトコル（教室内および共有の）

- 学校の間取りを考慮して、バスルームの使用、割り当て、アクセスの最良の方法を決定する。
- 学校は、個室のある共用バスルームで社会的距離を最大化する計画を作成する。手洗い、および日々のトイレのプロトコルは、児童生徒と共に考え、教員が作成する。
- 学校は、日々の個室のあるトイレを消毒する時刻を設定する。
- CDCの消毒と清掃のガイドラインに従い、校内のトイレの清掃と消毒を強化する。

廊下の行き来について

- 児童生徒と教職員は常にマスクを着用する。
- 児童生徒は一方通行とする—エレメンタリースクールの教員は児童生徒が教室を出る際はまず教室内に並ばせ、廊下を移動する時は監視を行う。
- 大勢が行きかう廊下では、向き合う事を避ける—可能であれば一方通行にする、ドアを出口、または入口のみとするなど。
- 床に印を付け、ルールを明示する。
- 廊下のルールは、車道と同じとする（右側通行）。
- 廊下では立ち止まらず移動する。共有スペース—特別授業（体育、図書室、アート、音楽）
- 児童生徒全員が確実に参加できるよう考慮しながら、アクティビティ、新しい環境への適応、およびすべての教育的決定の変更の焦点を当てつつすべての子どもたちのニーズを満たす体育、アート、および音楽カリキュラムを実現するための計画を作成する。（特別エリアの再開計画のセクションを参照のこと）
- 消毒ステーションの設備
- 共有スペースには、許容人数のガイドラインを掲示する。
- この文書の前半にある社会的距離のガイドラインを参照のこと。

カフェテリア

- カフェテリアの収容人数を減らす可能性があり、そうした場合には、特定の cohorts (グループ) は毎週のスケジュールでローテーションを組み教室で食事をする。
- 児童生徒が購入する食事、テーブルの消毒、トイレの監視、社会的距離と消毒手順のための人の流れに関するプロトコルを作成する。

屋外スペースとプレイグラウンド

- 休憩時間を含み、社会的距離、消毒、体育の授業と身体的な活動に使用する器材は、CDC、州、および地域のガイドラインに従う。
- 学校は、プレイグラウンドやフィットネス器機の使用によりウィルスに曝露する可能性を最小限に抑える方法を考慮しなくてはならない。これには、一度に複数の cohorts が使用できないようにすること、使用前後の手洗いまたは手指の消毒、フィットネス器機やその他の小さな屋外の器機の使用後の消毒などが含む。
- クラス/cohorts ごとに休憩時間をずらすことを検討する。
- 必要に応じ、社会的距離の監視の強化を計画する。

食物と栄養

GICSD フードサービス部門は、子どもたちに食事を直接提供するかそうでないかに関係なく、適用されるすべての健康と安全のガイドラインを含む児童栄養プログラムの必要条件を引き続き遵守していく。これには、在学中か遠隔学習中かに関わらず、スクールフードオーソリティ (SFA) に登録している児童生徒に毎日学校で朝食と昼食のオプションを提供することが含まれる。

カフェテリアのダイニングエリアでの児童生徒の密度を下げるため、教室やその他のスペースで食事を提供する場合があります。GICSD フードサービス部門のスタッフは日々、学区の健康アセスメントを記載し、また COVID-19 の兆候や症状がないか自己監視する。すべてのフードサービススタッフは、料理を準備して提供する間、常にフェイスカバーを着用しなくてはならない。

手指の消毒ステーションをカフェテリアの外に設置し、児童生徒は給仕を受ける前、またはダイニングエリアに入る前と出る時にはハンドサニタイザーを使用しなくてはならない。可能な場合は、カフェテリア/ダイニングエリアに入る前と出るときに手洗いもするよう指導する。承認されたバリアがある場合を除き、児童生徒間の社会的距離6フィートを維持しながら食事を給仕する。着席後は、社会的距離がある限り、フェイスカバーを着用する必要はない。

GICSD のすべての学校と建物において、食事は別の場所（教室など）で提供されたり、社会的距離を維持するために食事時間がずらされたりする場合がある。別の場所で食事が提供され、そのコホートに割り当てられた児童生徒が食物アレルギーを持っている場合、保護者は昼食をアレルギーのないものに制限するように指示される。

カフェテリア/ダイニングエリアでは、食事の合間に適切な清掃と消毒が行われる。キッチンと給仕エリアは毎日清掃、消毒される。接触頻度の高い箇所を含み、設備は使用率を考慮して日に一度またはより頻繁に消毒する。

学区は次のことを保証する。

- 手袋、マスク、エプロン、およびその他の備品は、スタッフがすぐに利用できるようにする。
- 児童生徒間での食べ物や飲み物（ビュッフェスタイルの食事、スナック）の共有を禁止する。標識などでそのルールを忘れないようにする。
- テーブルの間隔を広げる、テーブルを撤去する、使用禁止のテーブルに印をつける、テーブル間に物理的なバリアとなるものを設けるなどして、児童生徒同士が少なくとも6フィートの物理的な距離をとれるようにする。
- 6フィートの物理的な距離を維持することが困難な場合、食べ物を購入する場所などに、くしゃみガードや仕切りなどの物理的なバリアを設置する。
- カフェテリアのテーブルは、食事と食事の合間に消毒する。

学区は以下を検討する：

- 児童生徒が給仕を受けるため並んでいる間、また着席を待つ間に常に最低6フィート離れていられるよう、床にテープを貼る、壁に標識を掲示するなどの物理的なガイドを提供する。
- 現金の使用を避けるため、児童生徒のアカウントに事前に振込むことで支払い手順を合理化するよう保護者に推奨する。

グランドアイランド CSD トランスポーターションガイドライン

グランドアイランドの全児童生徒に可能な限り安全で最もリスクのないバスを提供するよう努める。スクールバスでは COVID-19 の健康リスクを完全に排除することはできないことを理解することが重要である。以下は、新しいサービスの要求に応える学区の能力と、利用可能なリソースで健康リスクの軽減に取り組む必要性とのバランスによるものである。

トランスポーターション部門の従業員（バスの運転手、助手、整備士、事務スタッフ、管理者）は、職場に到着する前に、学区の毎日の健康アセスメントを記載し、また COVID-19 の兆候と症状を自己監視することにより、日々監視される。スタッフは、スクールバスに乗っている間は常にフェイスカバーを着用しなくてはならず、子どもとの物理的接触がある場合は手袋を着用する必要がある。また、フェイスシールドを着用するオプションもある。個人の PPE を着用してもよいが、学区からも無料で提供される。

バスの消毒は毎日行う。運転手は、接触頻度の高い箇所を可能な範囲でバス運行の合間に消毒する。天候がよく気温が 45° F を超える場合、屋根のハッチと窓を少し開け、換気を行う。

保護者は、バスストップに来る前に毎日子どもの健康スクリーニングをする必要がある。児童生徒と保護者は、バスストップで乗り降りの際も可能な限りの6フィートの距離を保つように、またフェイスカバーを着用するように指示される。

児童生徒は、医学的理由や障害がある場合を除き、スクールバス内では常にフェイスカバーを着用する必要がある。フェイスカバーを着用していない児童生徒がバスへの乗車を拒否されることはなく、学区から支給されたフェイスカバーを使用し乗車する。可能な限り、バスの中で、また昇降の際、子どもたちは社会的距離をとる。同じ世帯の児童生徒は一緒に座るように指示される。バスに乗る際は、バスの後ろから前方に着席する。車椅子用スクールバスは、6フィートの社会的距離を確保するよう車椅子の配置を決める。

私立、教区、チャーター、公立以外または学区外の特別教育プログラムに通うためバスを使用する児童生徒は、学区が遠隔学習を提供している場合でも、各学校の対面モデルのスケジュールに従いバスを使用することができる。学区の児童生徒にスクールバスサービスを提供する業者は、このセクションに記載されているすべてのプロトコルと同様に従わなくてはならない。

バス:

- バスは毎日清掃、消毒される。EPA承認の消毒剤を使用する。運転手は、運行と運行の間に接触頻度の高い箇所を拭く。Protexus製の静電気スプレーシステムとPURE TABS製品を使用して、毎日午後の終了時にバスの消毒を行う。
- スタッフは、清掃および消毒方法の使用法についてトレーニングを受ける。
- 社会的距離を確保するため、1座席ごとに児童生徒は1人とする。同じ世帯に住む兄弟姉妹などは同じ席に座る（1席に2人まで）。
- 学校の開始時間と終了時間を変更することにより、バスの密度を減らす緊急時対応計画が作成されている。
- NYS運輸局の規制により、学区への潜在的な責任のため、バス内には可燃性のハンドサニタイザーを備えない。
- バスの運転手と助手は、バス内で個人のハンドサニタイザーを携帯することはない。

スタッフ:

- 運転手、助手、看護師、および整備士は、日々仕事を始める前にCOVID-19の症状についての自己健康スクリーニングを行うものとする。症状がある場合には、学区に通知し、医師の診察を受けなければならない。
- COVID-19の陽性症例は、トランスポートーションの責任者に通知され、適切な学区の安全衛生の基準が守られる。
- 児童生徒がバスに乗っている間は、スタッフ全員がフェイスカバー/フェイスシールドを着用しなくてはならない。
- 手袋、マスク、フェイスシールド、ガウンなどのPPEは、運転手、助手、看護師、事務スタッフ、および整備士のために、必要に応じて学区から提供される。
- 子どもと直接接触する運転手、助手または看護師は手袋を着用する。
- タイムクロックエリア、トランスポートーションのオフィス、メカニックベイなどの場所にいるすべてのスタッフにハンドサニタイザーが提供される。
- スタッフはトレーニングを受け、またPPEの適切な使用とCOVID-19の兆候と症状について定期的に復習する。
- スタッフは、適切な社会的距離に関するトレーニングを受け、定期的に復習する。

スクールバスに関し児童生徒に求められること:

- すべての保護者は、子どもたちにCOVID-19の兆候や症状がないこと、およびスクールバスに乗る前に体温が100°F以下であることを確認する必要がある。

- バスの後部から児童生徒を前方に配置し、お互いを通り過ぎないようにする。帰りのバスでは、生徒が降車する順番に基づき乗車する。
- バスストップで、また昇降の際は、6フィートの社会的距離を保つように児童生徒と保護者に指示する。
- 児童生徒は、身体に問題がない場合はバス内でフェイスマスク/カバーを着用する必要がある。フェイスマスク/カバーをすることが医学的に不可能な児童生徒（身体および精神の健康を損なう可能性がある場合など）は、フェイスカバー着用の対象ではない（校内と同じ）。
- 児童生徒がマスクを必要とする場合のためバス内には使い捨てマスクが装備されており、児童生徒は乗車を拒否されない。
- トランスポーターのスタッフは、スクールバスでのPPEの適切な使用とCOVID-19の兆候と症状について定期的に児童生徒に指導を行い、忘れることのないようにする。
- スタッフはバス内で適切な社会的距離について児童生徒にトレーニングをする。
- スクールバスでの飲食禁止。
- 児童生徒は社会的距離のプロトコルに従って昇降し、指定された入口と出口で学校に出入りする。学区の再開計画は、学校が遠隔学習の場合でも、非公立、教区、私立のチャーター学校、または個別教育プログラムによって対面モデルで教育を実施するために集会している学区外の児童生徒に、その学区が行っていない場合には、移動手段を提供する必要がある。

特殊教育：

- 特別なニーズを持つ児童生徒のためのトランスポーターは、IEPおよびFAPEの必要条件に準拠して行う。
- 車椅子用バスは、車椅子の配置を設定して、6フィートの社会的距離を確保する。
- 児童生徒に接する際には、常に適切なPPEを着用する必要がある。
- 特殊教育バス内で社会的距離を実施する。

学区のアクションステップ：

- スクールバスに乗る児童生徒の正確なリストを作成するために、保護者は子どもがバスを利用する、またはしない選択をし報告するためのプロセスを進めていく。
- COVID-19交通予算を確認する。
- 安全性と適時性のためCOVID-19のトランスポータースケジュールを確認する。
- 日々の代替交通手段は午前と午後ともに一か所に制限される。
- 代替交通機関を使用する場合は2020年8月14日までに通知し（2週間前）、バスを使用する児童生徒数の増減を確認する。

社会的・感情的学習

スクールカウンセラーの指導の下、総合的なカウンセリングプログラムが開発された。

- COVID-19によって全国の教育と学習の状況が劇的に変化する以前から、学校は児童生徒の社会的・感情的発達に取り組めるようにする、または取り組むべきだという認識が高まっていた。社会的・感情的学習スキル、または社会的感情的能力の5つのコア：自己認識、社会的認識、自己管理、人間関係のスキル、責任ある意思決定は、CASEL（学術的、社会的、および感情的な学習のための提携）によって識別されたもので、若者の幸福の基盤となる。学区の学校カウンセリングプログラム計画は、現状のニーズを満たすために見直され、更新される。

学校のカウンセリング計画を通告するための諮問委員会の設立

- 学習は社会的つながりがなければなし得ない。COVID-19の結果として生じた社会的断絶を考慮すれば、まず児童生徒、教職員、家族の社会的感情的ニーズに取り組むことなくして、リモートラーニングを行うことは不可能である。さらに、これらの社会的・感情的学習のニーズに対応するためには、学区のすべての関係者に必要なサポートとリソースを提供し、児童生徒だけでなくお互いにどのように向き合うことができるかについて集合的に理解するコミュニティを構築する必要があると認識している。
- カウンセラー、心理学者、学校のソーシャルワーカーは、テレヘルスのオプションを備えた児童生徒のメンタルヘルスとカウンセリングサービスを提供する。スタッフは、学校に戻る児童生徒とCOVID-19に関連するさまざまなメンタルヘルスのニーズをサポートするための準備を進め、計画を立てていく。
- 各学校は、SELと学術的サポートを統合し移行計画に組み込んでいくための委員会を立ち上げるよう計画する必要がある。また、すべての児童生徒と大人たちのため、思いやりがありかつ安全で支援的な環境を作り出し、維持していく。
- 教職員と児童生徒が、社会的および感情的な能力について定期的に考えることのできる機会を用意する。

メンタルヘルス、行動的および感情的サポートサービスのリソースと紹介の計画

- 学校とクラスにとって最適な指導計画を検討する。（コミュニティミーティング、修復のための実践、小グループでのメンタリング、脳の休憩）

教職員や児童生徒と過去、現在、そして将来においてCOVID-19が自分自身と周りの世界に及ぼす影響について注意深く話し合う。

○会話は、互いを尊重し合う安全な場所で行われなくてはならない。

トラウマに敏感な環境を育成するために意図的に努力をするものであるが、このような会話は感情的な反応を引き起こす可能性があり、不平等さに気持ちが向いてしまい難しい話し合いにつながる可能性もある。

家族支援サービス

家族支援サービス（FSS）は、家族や子どもの専門的な治療と治療のニーズを満たすために、家族を代理店、専門のメンタルヘルス従事者、サポートの専門家などさまざまな外部のサポートにリンクするためのリソースとして、これまで通りに機能する。FSSは引き続きコミュニティパートナーと協力し、学生、家族、スタッフのメンタルヘルスとトラウマをサポートするためのアクセスを確保する。

学校のスケジュール

対面モデル（児童生徒全員）

すべての教職員と児童生徒はスケジュール通り登校し一日を過ごし、健康と安全を維持するための予防策のもと通常通りのコース/科目の授業を行う。社会的距離の措置を講じ、マスクを着用する。このモデルでは、児童生徒は実際に登校し学校の環境に参加する。さらにほとんどの場合、教育プログラムは、現在の方針を維持する。

ハイブリッドモデル（密度50%減） 児童生徒は、建物と各教室内人数を約50%に減らすために、スケジュールを変更して学校に登校する。A/Bコホート(グループ)モデルに従い、週に2日間、対面で学校に通う。

- A/Bコホートはアルファベット順に分割する。
- 姓がA-Lで始まる児童生徒は2日間（月と木）通学し、姓がM-Zで始まる児童生徒は在宅とする。
- 姓がM-Zで始まる児童生徒は2日間（火と金）登校し、姓がA-Lで始まる児童生徒は在宅となる。
- 水曜日は、すべての児童生徒が家にいる日とする。
- 児童生徒が家にいる日は、ChromebookとiPadを使用し、教員の指導を受けることができる。

社会的距離、マスクの着用はハイブリッドモデルの一部として実践する。このモデルでは、児童生徒は登校し、小規模のグループで学習活動に（決められた時間内）参加する。対面式の指導に出席していない間は、教師から適宜同時性、非同時性を組み合わせた指導を受ける。

決められた時刻に児童生徒が教師からのフィードバック/サポートを求めるやり取りを含め、児童生徒と教師は定期的にコミュニケーションをとる。リモートでの指導中は出欠を取り、教師と児童生徒のやり取りを監視し、学習の進行を維持する。

3つの教育モデルのいずれにおいても、グランドアイランドの各学校の児童生徒は、ニューヨーク州の学習基準に従って指導を受けることになる。

完全な遠隔学習（密度 100%減） 児童生徒は遠隔で指導を受ける。ハイブリッドモデルで使用するすべてのデジタルな学習または遠隔学習は、遠隔学習モデルでも実践する。

開始時刻と終了時刻は、学校ごとにずらすこととする。この新しい開始時間と終了時間は、2020～2021年度に100%の児童生徒が学校に戻るか、50%のハイブリッドモデルにおいて使用する。これらの時刻変更により、どちらのモデルにおいてもバスの密度を下げることが可能となる。

ミドル/ハイスクール	ベロニカコナーミドル (VCMS)	ハイスクール (HS)	エレメンタリースクール	ヒュース	ケイガバイン	シッドウェイ
ミドル/ハイスクール バス学校到着	7:05	7:48	エレメンタリーバス学校到着	8:28	8:28	9:05
HR/授業開始	7:15	7:58	HR/授業開始	8:43	8:43	9:25
授業終了	1:25	2:18	授業終了	2:53	2:53	3:35
バス学校出発	1:35	2:26	バス学校出発	3:06	3:06	3:45

ニーズの高い学生

ニーズが高いと考えられる児童生徒は、可能な場合はフルタイムの対面学習を優先できる。たとえば、ライフスキル特別教育などの児童生徒は、適宜月曜日、火曜日、木曜日、金曜日に登校することになる。

出欠と慢性的な欠席

欠席

すべての児童生徒がニューヨーク州の学習基準を確実に満たす、または超えることを保証するという課題において、学区は児童生徒と保護者の積極的なパートナーである。学区は、学校を休まず出席することと、学業の成功、および学校の修了にポジティブな相関関係があることを認識しているため、児童生徒の総括的な出席方針を策定した。

各児童生徒の出席、欠席、遅刻、早退の記録は、委員会の規定に準拠し出席記録として保管される。この情報は、学区の児童生徒管理システムであるインフィニットキャンパスに収集される。欠席、遅刻、早退は、「免除」または「非免除」として、その理由とともに学区の定めるコードを使用し入力される。

学区は、欠席、遅刻、早退は、以下の基準に従って免除または非免除と見なすことを決定した。

- A. 免除：本人の病気、家族の病気または死去、宗教的理由、感染疑いによる自宅待機、法廷への出廷が必要な時、医療の予約、承認された大学訪問、承認された共同作業プログラム、軍事的義務がある場合、行政が承認した学校主催の活動、または行政が承認したその他の特殊な理由がある場合は、欠席、遅刻、早退は免除される。
- B. 非免除：理由が上記のカテゴリ（例えば、家族での休暇、狩猟、ベビーシッター、散髪、仮運転免許のテストまたは路面テスト、寝坊など）に該当しない場合、欠席、遅刻、早退は免除されない。

慢性的な欠席

慢性的な欠席は、免除または非免除のいかなる理由があっても年間の在籍学校日数の少なくとも10%を欠席することと明確に定義される。

学区は、慢性的な欠席をするリスクのある児童生徒のための介入計画を実行する。出欠は以下のようにとり、記録する：

- A. キンダーガーデンから6年生までの児童（教室での授業と、時間割に従い教員の引率によるアート、音楽、体育などへのグループ移動）は、日に一度出欠を取り記録する。
- B. 7年生から12年生の生徒の場合、授業1時間ごとに出欠を取り記録する。7年生から12年生の場合、各授業時間の出欠は生徒のレポートカードに記録する。
- C. 欠席、遅刻、早退は、この計画に明記された基準に従い、免除または非免除として記録される。
- D. キンダーガーデンから12年生までの全学年において、児童生徒が遅刻または早退した場合、この計画に明記された基準に従って免除または非免除として記録される。すべての出欠情報は各クラスまたは一日の終わりにまとめられ、出欠を担当する職員に提出される。欠席、遅刻、または早退の理由は、学区または学校の基準に従ってコード化し、児童生徒の記録として保存される。

デジタルの公平性/テクノロジー

アクセス

充分なレベルの高速インターネットへの信頼性あるアクセスにより、児童生徒と教員はリモート/ハイブリッドモデルへの完全な参加が可能になる。学区は、接続の問題がある場合、あるいはMiFi（ホットスポット）が必要な場合に講じる適切な手順を、電話と電子メールを介し教職員と保護者に通知した。

デバイス

学区では、2年生から12年生までのすべての子どもに1:1のモバイルコンピューティングデバイスを購入しており、現在は、キンダーガーデンから1年生までのすべての子どもにもモバイルデバイスを購入するべく取り組んでいる。主にChromebookを所有しているが、低学年にはiPadを用意する。

2年生から12年生のすべての教師と児童生徒が学校または自宅で使用できるよう、学区提供のデバイスを用意する。キンダーガーデンと1年生は、年度の最初の数か月以内にデバイスを準備する。

自宅で学習している間の児童生徒の対応についての情報を、教員から引き続き収集する。昨年の春にはこの方法を活用し、子どもが自宅学習を修了していないケースでは、アクセシビリティが障害となっていることを突き止めた。

可能な限り、十分なアクセスのない児童生徒や教員にデバイスとインターネットアクセスを提供する必要性に対処していく。学区は、地域の BOCES と協力して、自宅でのアクセスが不十分な子どものためのホットスポットを購入する。

学区は、児童生徒が遠隔またはハイブリッドモデルでの学習に参加し、学習基準において高い習熟度を示すことができるよう、すべての児童生徒がデバイスや高速インターネットに十分にアクセスできない状況下にある場合のための複数の方法を提供する。学校の開始時にデバイスを持っていない児童（キンダーガーデン、1年生）には、遠隔とハイブリッドモデルで作業するためのプリントを配布する。教員は、電話、電子メール、オンライン会議を使用して保護者と連絡を取り、子供の進捗状況の把握に努める。

教えること、学ぶこと - 学業について

対面モデル (全児童生徒)

すべての教職員と児童生徒は、実際に登校して1日を過ごし、健康と安全を維持するため確立された予防策のもと、これまで同様に予定されたコース/科目で指導が行われる。社会的距離を実践し、マスクを着用する。このモデルでは、児童生徒は学校の環境に参加、関与する。また、教育プログラムはほとんどの場合において、現在の方針を維持する。

ハイブリッドモデル (密度 50%減)

児童生徒は、建物と各教室内人数を約 50%に減らすために、スケジュールを変更して学校に登校する。A / B コホートモデルに従い、週に 2 日間、対面で学校に通う。

- A / B コホートはアルファベット順に分割する。
- 姓が A-L で始まる児童生徒は 2 日間（月と木）通学し、姓が M-Z で始まる児童生徒は在宅とする。
- 家にいた姓が M-Z で始まる児童生徒が 2 日間（火と金）登校し、姓が A-L で始まる児童生徒は在宅となる。
- 水曜日は、すべての児童生徒が家にいる日とする。
- 児童生徒が家にいる日は、Chromebook と iPad を使用し、教員の指導を受けることができる。

社会的距離、マスクの着用はハイブリッドモデルの一部として実践する。このモデルでは、児童生徒は登校し、小規模のグループで学習活動に（決められた時間内）参加する。対面式の指導に出席していない間は、教師から適宜同時性、非同時性の指導を組み合わせ受ける。決められた時刻に児童生徒が教師からのフィードバック/サポートを求めるやり取りを含め、児童生徒と教師は定期的にコミュニケーションをとる。リモートでの指導中には出欠を取り、教師と児童生徒のやり取りを監視し、学習の進行を維持する。

3つの教育モデルのいずれにおいても、グランドアイランドの各学校の児童生徒は、ニューヨーク州の学習基準に従って指導を受ける。

完全な遠隔学習 (密度 100%減) 児童生徒は遠隔で指導を受ける。ハイブリッドモデルで使用するすべてのデジタルな学習または遠隔学習は、遠隔学習モデルでも実践する。

カリキュラムと授業について

学区は、教える内容と児童生徒が学ぶべき内容を明確にするため、授業内容を垂直方向、水平方向、および該当する基準に確実に合わせることに重点を置いている。また、カリキュラムを調整することで効率的なプランニングとリソースの共有を促進している。配信モデルに関係なく、児童生徒にすべての教員から同じコンテンツの知識とスキルを提供することが求められている。

学業的な差異と介入

学区は、すべての児童生徒にとって適用可能な「介入のための対応」(RtI) プロセスに取り組む学区全体のイニシアチブを実践するため、教育的実践と手順を確立している。グランドアイランドセントラル学区は、適切な予防、介入、および改善を提供すると同時に、質の高い指導とすべての学年が基準レベルに届くことを確実にする。

システムマネージメント

キンダーガーテンから12年生では Google Classroom を使用し、宿題の投稿、児童生徒や保護者とのコミュニケーション、評価の作成、デジタル情報の共有を行う。

教員は、ハイブリッド/遠隔学習の学習コンテンツを計画、提供、管理する。学習コンテンツは、他のアプリケーションで作成、アップロードし Google Classroom 内で整理することが可能である。コンテンツには、文書、ビデオ、学習用アクティビティ、および評価が含まれる場合がある。

- すべての児童生徒に、自宅で使用できる電子機器を提供する。
- インターネットへのポータブル接続をインターネット接続のない家庭の児童生徒に提供する。
- コース/科目の指導の時刻など、定期的な学校のスケジュールを維持または確立する。

キンダーガーテン—3年生、4年生—6年生、7年生—8年生、9年生—12年生に分ける。

- 校長の指示に従い、インフィニットキャンパスシステムでの出欠をとる。

児童生徒と家族のための通信プロトコル

●授業で必要とされるもの、またオフィスアワーの設定や、教育者および他の児童生徒と協力する機会など、オンライン学習に参加する際求められるものを共有するために、児童生徒と家族に明確なコミュニケーションを提供する。
○各学校からのウェルカムレターはすべての児童生徒と家族に送られるが、そこに保護者が Google Classroom にアクセスする方法も記載される。

○教員はフォローアップを行い、すべての児童生徒と家族を歓迎し、授業のスケジュール、教員の連絡先情報などオンライン学習に必要なものを準備する。また、授業に関連するすべてのメール、掲示板の投稿、提出された課題にただちに対応する。

○毎日のクラスミーティングに加え、教員は児童生徒ひとりひとりの質問に答えるためのオフィスアワーを設定する。

- 児童生徒や家族が遠隔学習に必要な資料にアクセスできるように準備する。

○ガイダンスを提供し、すべての児童生徒が授業の一部として、すべてのシステムにログインできるよう確認する。
○オーディオ/ビデオ対応の会議スペースにハードウェアをセットアップし、テストとトラブルシューティングを行う。

○ロジスティクスおよびテクニカルヘルプ用の、テクヘルププロトコルについて通知する。

関与のためのストラテジーとオンラインツール

非同時性学習：非同時性学習は、児童生徒がバーチャルな環境で自主的に学習活動と課題に取り組むときに発生する。教員は、書面の資料と視覚的なプレゼンテーションを通じて学習コンテンツを提供する。児童生徒は、インタラ

クティブな学習活動、自己採点と教員による評価、および教員が評価する作文やプロジェクトによって、理解していることを示す。

同時性学習 - 同時学習は、児童生徒がオーディオ/ビデオ対応のミーティングに同時に参加したときに発生する。ミーティングに、チャットや個別のディスカッションに分かれるインタラクティブな機会が含まれる場合、この学習法はすばらしく効果的になる。この同時セッションには、インストラクターによる全体の授業と、学習者間的小グループ作業が含まれる場合がある。

●ビデオコンフェレンスソフトウェア（Google Meet）を使用した生の（同時）授業。

○児童生徒が積極的に授業に参加し続ける1つの方法は、子どもが答えなければならない質問を投げかけることである。顔を合わせた教室で手を挙げない子どもの場合、チャットで意見を共有する方が快適なことがある。授業中に質問したり、意見を言うこともできる。

○教室で質問するときは、待つ時間が重要である。これにより、児童生徒は返答を準備する時間を与えられる。使用する機器、ネットワーク、またはバンド幅の制限により、ビデオとオーディオのフィードに遅れが生じる可能性があるため、バーチャルな教室では待ち時間が更に重要となる。児童生徒は、さまざまな速度で入力またはクリックすることが可能である。

○クラスミーティング中、教員は G-Suite やその他のオンラインツールを使用して、子どもたちが飽きずに参加し続けるようにできる。文字入力または絵を描かなくては返答できないアクティビティを用意する。一部の児童生徒はインタラクティブツールの使用に慣れていない場合があることに留意する。練習用アクティビティ（スカベンジャーハント）を提供し、ツールがどのように機能するかを理解する時間と機会を与える。Google Classroom を介して Google タイプのドキュメントを宿題にする場合は、「各生徒にコピーを作成する」設定を使用すると、児童生徒の作業の進捗状況が教員に表示される。また、児童生徒がそのドキュメントを開いたときの情報も提供される。

●ビデオコンフェレンスのレッスンは記録することができ（非同時）、保存したファイルは簡単に児童生徒と共有できる。

社会的距離

6フィートの距離を維持できていない場合、すべての教室で児童生徒はフェイスマスクを着用する必要がある。社会的な距離が可能である場合でも、すべての教室で着用を推奨する。

- 教員の机（または台）には、プラスチック製のポリカーボネート製のバリアを設置しなくてはならない。
- プラスチック製のポリカーボネート製バリアは、各児童生徒の机またはテーブルにも配置される。
- 各教員にフェイスシールドが提供される。
- 各クラスの終了後に、机とバリアを清掃する必要がある（推奨される清掃製品の使用については、安全手順を参照のこと）。

スクリーニング

- 保護者は Google フォームに毎日記入し、子どもに COVID の症状がないことを証明する。
- 教職員は、受動的同意プロトコルを通じて COVID の症状がないことを証明する。

教員は COVID の症状についてトレーニングを受け、児童生徒を監視する。子どもが症状を示した場合は保健室に報告し、看護師による検査を受けるよう指示する。

●児童生徒は COVID の症状とセルフモニターについてトレーニングを受ける。症状を感じた場合はいつでも、看護師による検査を受けるために保健室に報告するように指導する。

特殊教育

再開プラン A - 学区は再開プラン B (ハイブリッドモデル)で今年度を始めることを決定したため、ここには含まない

再開プラン B - 中程度の社会的距離 (ハイブリッドモデル)

- A に比べ厳格なプラン
- 学校の施設は解放するが、社会的距離が必要となる
- 学校施設内の人の密度を最大 50%以下に制限する
- 健康プロトコルの強化
- すべての児童生徒はハイブリッドモデルにのっとり学習する

目的:

ここでのプロトコルの目的は、児童生徒、教職員、そしてより大きな学校コミュニティに対する COVID-19 ウイルスのリスクを低減しながら、典型的な学校環境の中での教育の実践をサポートすることである。この計画で推奨されているプロトコルは、疾病管理予防センター (CDC) および米国小児科学会 (AAP) によって推奨され、また世界中で広く用いられており、児童生徒、教職員、家族にとって、持続可能な予防策によってウイルスの伝染を減らすことに基づいている。

指導原則:

- 安全**—すべての手順とプロトコルは、行政の指示に従い、すべての児童生徒、スタッフ、コミュニティの全体的な健康と安全をサポートするために設計するものでなくてはならない。決定はすべて CDC、AAP およびその他の地方自治体が推奨するガイドラインによってサポートされている。
- 包括性**—すべての手順とプロトコルは、特有な医療的ニーズがあり医師からの指示がある場合を除き、学校に存在するすべての児童生徒を考慮して設計する必要がある。すべての手順とプロトコルは、経済的に不利な立場にある、および特定の医療やメンタルヘルスのニーズを持つ児童生徒に対する考慮事項を説明する必要がある。
- 柔軟性**—すべての方針、手順、プロトコルは、持続可能性を確保した上で開発されるべきであり、環境の変化に適応する必要がある。
- コミュニケーション**—すべての手順とプロトコルは、すべての人の健康、安全、学習に対し求められている事項を明確に設定し、伝える必要がある。コミュニケーションはオープンにし、教職員、スタッフやコミュニティと頻繁に行う。公立学校の教育計画は学校コミュニティに周知されなくてはならない。

最も弱い立場にある児童生徒が潜在的なウイルスに曝露する可能性を最小限に抑える努力として、GICSD は次のことを行う：

社会的距離に焦点をおき、温水またはハンドサニタイザーで 1 時間に 1 回 20 秒間手洗いし、マスクを着用する。社会的距離をとることができない場合にはマスクを着用する。

建物全体に視覚的なサポートを掲示し、子どもたちが求められていることを理解し、また忘れることのないようサポートする。

指定された容器やエリアを使用して、各児童生徒の持ち物を分けて保管する。

接触頻度の高い物の共有を最小限に抑える（例として、可能であれば、各児童生徒にその日使用するデバイスなどを割り当てる）。

使用した物はすべて毎日消毒する。

必要に応じ防護用バリアを利用する。

グループ化とスケジューリングを駆使し、露出を減らす。

医学的に虚弱な児童生徒のための在宅指導の方法を探求する必要がある。

障害のあるすべての児童生徒には、自由かつ適切な教育を受ける権利と、個別教育プログラム（IEP）に基づく特別教育サービスを受ける権利がある。特殊教育を受けている児童生徒は、リモートラーニングの影響がより大きく、通常の教育の中断によって不適切な影響を受ける可能性がある。個々の子どものニーズによっては、社会的距離のガイドラインと特定の IEP の基準の両方を満たすことは現実的ではない。身体的距離のガイドラインを満たす試みには、同時に個々の子どものニーズを満たす必要もあり、多くの場合はケースバイケースでクリエイティブな解決策が必要となる。*American Pediatrics*（アメリカ小児学会ジャーナル）

GICSD は、障害のある児童生徒が無料で適切な公立教育（FAPE）を利用できるようにする。私たちは、可能な限り、障害を持つ児童生徒ひとりひとりが個別教育プログラム（IEP）で特定された特殊教育および関連サービスを受けられるようにする。再び閉校する事態が発生した場合、障害のあるすべての児童生徒にデジタルプラットフォームを導入し、また医学的に虚弱な児童生徒または保護者が登校させないことを選択した児童生徒には説明を行う。

特別なトランスポーターション

●特別なトランスポーターションを必要とする児童生徒のため、衛生設備などについては CDC と DOT のガイドラインに従う。

自己充足 (12:1:1, 8:1:1, 6:1:1) (ライフスキル)

- 衛生設備などについては、児童生徒に向けた CDC のガイドラインと規制に従う。
- 教職員はフェイスマスクを着用する。
- 児童生徒は必要に応じてフェイスマスクを着用する。
- 児童生徒のニーズにはケースバイケースで対応する。
- 児童生徒に正しい手洗いの方法を教え、必要であれば頻繁に手指を洗う機会を作る。また、教室に出入りするとき、食事の前後、トイレの使用の前後、さらに予定された時間には手洗いの監督する。
- 小規模グループの指導や個別の指導をするときは、必要があれば透明なバリアを使用する。
- 自宅で「練習」を始められるよう保護者にガイドを送る。
- SC / ICT プログラムに参加している児童生徒は、どのようなハイブリッドのプログラムが最も適しているかを個別に判断する。
- これらの児童生徒は、4日間登校し、それぞれの特有のニーズに応える。プランは月曜日、火曜日、木曜日、金曜日とする。

ICT/15:1:1

- 衛生設備などについては、児童生徒に向けた CDC のガイドラインと規制に従う。
- 教職員はフェイスマスクを着用する。
- 児童生徒は必要に応じてフェイスマスクを着用する。
- 児童生徒のニーズにはケースバイケースで対応する。
- 児童生徒に正しい手洗いの方法を教え、必要であれば頻繁に手指を洗う機会を作る。また、教室に出入りするとき、食事の前後、トイレの使用の前後、さらに予定された時間の手洗いを監督する。
- 小規模グループの指導や個別の指導をするときは、必要があれば透明なバリアを使用する。
- 特殊教育と一般教育の教員は協力して、すべての児童生徒のニーズを満たす授業を計画する。

- 特殊教育の教員は、指導方法がバーチャルか対面かに関わらず、IEPの児童生徒をサポートするため固有の授業計画を作り上げる必要がある。
- GICSDは、障害のある児童生徒のひとりひとりに、IEPで特定された特殊教育と関連サービスが最大限提供されていることを確認する。
- 児童生徒を教室に移動させて消毒する時間を計画する。

関連サービス (スピーチ/ランゲージ、OT、PT、聴覚、音楽セラピー、ビヘイビアサービスなど)

- 衛生設備などについては、児童生徒に向けたCDCのガイドラインと規制に従う。
- 教職員はフェイスマスクを着用する。
- 児童生徒は必要に応じてフェイスマスクを着用する。
- 児童生徒のニーズにはケースバイケースで対応する。
- 関連サービス (OT/PT/Sp) は、今まで通り指定された関連サービススペース内で行う。
- 医学的に虚弱な児童生徒は、テレサービスを受け続ける必要がある可能性がある。
- セラピーのスケジュールを立てる際は、一般教育の学生よりも特殊教育の児童生徒が優先される。(障害のある一般教育の学生は、スペースが許す限り特殊教育のグループに入れる)
- グループとグループの使用の間にエリアを清掃消毒できるようスケジュールを作成する。
- 児童生徒は必需品を持参する。(鉛筆など)
- 児童生徒の教室への移動時間のスケジュールを作成する。
- 小規模グループの指導や個別の指導をするときは、必要があれば透明なバリアを使用する。
- グループあたりの人数は最大3名とする。
- 施設委員会は、児童生徒の個々のニーズを満たすための教職員用のマスクを検討する。

初期評価と再評価

- IEPの新しい児童生徒、次に、2020年3月以前にすでに「パイプライン」にあった児童生徒、そしてスクリーニングに合格しなかったキンダーガーテンの児童の順に評価を行う。
- ISTチームと会うことは可能であるが、児童生徒は初めの3か月以内にCSEに紹介されるべきではない。
- CSEの児童生徒を優先する。
- すべての学校に勤務する心理学者と関連サービスは、すべての児童生徒を支援する。
- すべての特殊教育教員と関連サービスは、IEPの児童生徒の進捗状況を監督し、必要に応じてIEPを修正する。

危機予防介入 (CPI)

- 児童生徒の社会的、感情的な幸福に関し、児童生徒と教職員の安全を守るため、身体的な接触が必要になる前に、状況を軽減するために全力を尽くす。たとえば、1人の児童生徒を移動させるのではなく、全員を安全なスペースに移動させる、など。
- 必要に応じて、すべての教職員が行動介入計画を確認/修正する。
- 各学校は、CPIチームプランを確認/修正する。

再開プラン C - 最大限の社会的距離 - 児童生徒全員の遠隔学習

- 最も厳格なプラン
- 学校施設の閉鎖

目的: 再開プラン B を参照のこと

指導原則: 再開プラン B の指導原則を参照のこと

プラン C の特殊教育プロトコル

障害のあるすべての児童生徒には、自由かつ適切な教育を受ける権利と、個別教育プログラム (IEP) に基づく特殊教育サービスを受ける権利がある。特殊教育サービスを受けている児童生徒は、遠隔学習の影響がより大きく、通常の教育の中断によって不適切な影響を受ける可能性がある。個々の子どものニーズによっては、社会的距離のガイドラインと特定の IEP の基準の両方を満たすことは現実的ではない。身体的距離のガイドラインを満たす試みには、個々の子どものニーズを満たす必要もあり、多くの場合はケースバイケースでクリエイティブな解決策が必要となる。*American Pediatrics* (アメリカ小児科学会ジャーナル)

GICSD は、障害のある児童生徒が無料で適切な公立教育 (FAPE) を利用できるようにする。私たちは、可能な限り、障害を持つ児童生徒ひとりひとりが個別教育プログラム (IEP) で特定された特殊教育および関連サービスが受けられるようにする。再び閉校する事態が発生した場合、障害のあるすべての児童生徒にデジタルプラットフォームを導入し、また医学的に虚弱な児童生徒または保護者が登校させないことを選択した児童生徒には説明を行う。

これには、すべての児童生徒が自宅で自分用のデバイスを使用しインターネットを使用できる環境が必要である。

自己充足 (12:1:1, 8:1:1, 6:1:1)

●GICSD は、障害のある各児童生徒に IEP で特定された特殊教育と関連サービスが最大限提供されるよう努める。

ICT/15:1:1

●GICSD は、障害のある児童生徒のひとりひとりに、IEP で特定された特殊教育と関連サービスが最大限提供されることを確認する。

●このためには、すべての児童生徒が自宅で自分用のデバイスを使用しインターネットを利用できる環境が必要である。

●児童生徒には 1 対 1 で対応する必要がある。

関連サービス (スピーチ/ランゲージ、OT、PT、聴覚、音楽セラピー、ビヘイビアサービスなど)

●すべての特殊教育の児童生徒は、テレサービスを継続して受ける必要がある。

●セラピーのスケジュールを立てる際には、一般教育の学生よりも特殊教育の児童生徒が優先される。

●IEP はグループ全体ではなく個別に修正する必要がある。

初期評価と再評価

●IEP の新しい児童生徒、次に 2020 年 3 月以前にすでに「パイプライン」にあった児童生徒、そしてスクリーニングに合格しなかったキンダーガーテンの児童の順に評価を行う。

●IST チームと会うことは可能であるが、児童生徒は初めの 3 か月以内に CSE に紹介するべきではない。

●CSE の児童生徒を優先する。

●すべての学校に勤務する心理学者と関連サービスは、すべての児童生徒を支援する。

●すべての特殊教育教員と関連サービスは、IEP の児童生徒の進捗状況を監督し、必要に応じて IEP を修正する。

●許可された場合には、評価は現場で1対1で行うことができる。ただし、適切な安全対策を講じることが不可能な場合は、遠隔評価のために提供されるツールとトレーニングの使用を検討する。

無償かつ適格な公的教育 (FAPE)

- 障害者個人教育法 (IDEA) に基づき、障害を持つ各児童生徒には対処しなければならない固有のニーズがあることを認識する。特殊教育委員会 (CSE) と就学前特殊教育 (CPSE) は、各児童生徒のニーズ、プログラム、関連サービス、設備について考慮し、各児童生徒のための教育計画 (IEP) を作成する。
- 医学的に虚弱、または身体的健康に障害のある児童生徒の学校への復帰に対処するため、個別教育プランにしたがい設備と手順の変更が必要になる場合がある。
- 生活安全課(the Pupil Personnel Department)は、重大な医療リスク要因を持つ児童生徒の家族と頻繁に連絡を取り合い、子どもが学校に戻る前に追加の予防策や独自の対策が必要かどうかを判断する。
- 対面学習、ハイブリッド学習、および遠隔学習は、通常、前述の学区のプランに従うが、特定のプログラムやサービスを提供するため、これらの指導に個別化が必要になる場合がある。また、2020年3月時点のNY州教育局 (NYSED) のガイダンスは、学校がオンラインまたはバーチャル学習プラットフォームに移行する場合、IEPを修正する必要がないことを明示している。
- 学齢期の児童生徒、またはBOCES、プリスクール特殊教育プログラム、および郡全体のCPSEプログラムに参加する児童生徒においては、授業の性質と指導法および関連サービスの提供について、学区に通知する。

文書とコミュニケーションについて

- 児童生徒の計画の実施に関しCOVID-19の制限に対応するものではないが、IEPは、障害を持つ各児童生徒ひとりひとりのニーズを満たすためのフレームワークである。公衆衛生上の緊急事態である現在、CSEとCPSEは必要に応じ、どのように児童生徒のニーズを最大限満たすことができるかについて再検討する。特殊教育の職員は、IEP進捗報告を仕上げることを含め、プログラムとサービスの提供を一貫した方法で文書化する。また、その職員は、保護者の選択する言語と手段（電話、電子メールなど）で定期的に連絡する。

保護者の関わり

- 保護者とのコミュニケーションは、連邦および州の要求に従い、児童生徒の家族の希望する言語で提供される。コミュニケーションの手段には、通訳サービス、字幕、手話によるテレビ会議が含まれるが、これらに限定されるものではない。

コラボレーション

- CPSEとCSEは、児童生徒にサービスを提供するためのプランを引き続き見直し、作成していく。目標の進捗監視と特別に設計する指導の開発を一貫して実施する。特殊教育職員は、定期的な監視を継続し、保護者と進捗についてのやりとりを行う。

特殊教育における身体的距離

行動、社会的感情的のレベル、日常生活の活動などの分野で固有の課題を抱える児童生徒の身体的な距離のとり方について、特殊教育の職員は柔軟に決定する必要がある。

- 学区は、広範なサポートの必要性、行動上の課題などを抱える児童生徒など、障害を持つ特定の子どもたちに必要な調整を行う。
- 社会的距離、フェイスカバー、フェイスシールドの着用、物理的なバリアの使用などの安全対策を含め、安全を提供するサービスへの対応と児童生徒を評価するための手順を作成する。

- 社会的距離について検討する場合、障害のある児童生徒が最も制限の少ない環境で同級生のそばにいられるようにすることを重要視する。児童生徒ひとりひとりの固有の障害のニーズを満たすために必須となる設備、補助器具、テクノロジー、またその変更についても検討する。
- 教職員、助手、教育関連サービスのスタッフは、医学的などの理由でフェイスマスクを着用できない児童生徒と一緒に作業する際は、常にフェイスマスクを着用する。
- 一部の教員または教育関連サービスのスタッフは、児童生徒が教員またはセラピストの口を見ることができるよう、口の部分が透明なフェイスマスクを必要とする場合がある。
- 唾を飛ばすことのある児童生徒と一緒に作業する際は、学校職員もフェイスシールドを着用する必要がある。
- 設備、変更、補助器具、およびテクノロジーへのアクセスは、IEPの指示通りに提供される。指示がオンラインで提供される場合、このアクセスを提供するには柔軟性が必要となる。

医学的に脆弱またはハイリスクな子どものためのプランニング

NY州保健局（NYSDOH）の定義に従い、医学的に脆弱である、またはハイリスクである教職員、児童生徒、またはそのような家族と一緒に住んでいる教職員と児童生徒は、社会的距離を確保するために追加の配慮が必要になる場合がある。学区は、教職員が社会的距離の推進を尊重しながら、同時に、医療や個人などのニーズを満たす方法を検討する。医学的に脆弱な各個人には、健康と安全を維持しながら、学校での個人のニーズに最も対応した独自の計画が用意される。

要検討の事項:

- 特に個人の医療または個人のニーズに対応する場合、児童生徒と教職員の健康と安全を維持するためにはスペースと設備をどのように利用するか。
- 実際に学校に通うことができる期間の長さに関係なく、柔軟性をもって個人をつなぎ、クラスや学校のコミュニティに参加させるにはどうするか。
- 下記のリストにおいて、学区または学校全体で計画した手順とプロトコルに関連し、障害を持つ個人の特有のニーズはどんなものか。
 - 毎日の健康スクリーニングおよび/または体温測定。
 - トイレ、おむつ、便器の使用
 - 人の流れ
 - 休憩やレクリエーション活動のためのキャンパスの使用

二か国語教育と世界の言語

英語学習者

GICSDは、ELL識別プロセスの最初のステップとして、引き続き母国語質問票（HLQ）を使用し、個別面接を実施する。HLQは保護者がデジタルで記入して提出することができる。資格を持った担当者が、英語以外の言語が自宅で話されているかどうかを判断する。児童生徒または保護者との個別面接は、担当者が遠隔で行うことができる。面接では、児童生徒の能力や次のような作業サンプルの評価も行う。

- 英語での読み書き
- 児童生徒の母国語での読み書き
- 算数/数学

これらは面接中に行い、面接時に作文のサンプルや演習を終わらせる場合もある。保護者は、メール、児童生徒の作品の写真、または他のデジタルプラットフォームを使用して、作品サンプルを提出することができる。GICSDは、HLQ、個別面接、およびこの遠隔での識別プロセスの一部として作成されたその他の記録を含み、児童生徒に関連するすべての文書を保持する。注：2019-2020年度のCOVID-19の休校中に入学した児童生徒の識別プロセスは30学日以内に完了する。また、2020年の夏の間に入学登録した児童生徒の場合は、2020-2021年度の最初の20学日以内とする。コミッショナーの規定パート154に従い、この20日間の準備期間の後、10学日以内に初期登録された全児童生徒の識別プロセスを再開する。

多言語家族とのコミュニケーション

保護者とのコミュニケーションは、連邦および州の定めた規定に従い、児童生徒の家族が選択した言語で提供される。ELLの保護者とのコミュニケーションは、児童生徒の関心を高め進歩を確実なものにするために、一般教育とENLの教員の両方が定期的に行う。

ELL サービスの継続

ENL教員は、英語習得の最新の学習法（NYSESLATなど）に基づき、必要な学習単位を含み適切な指導を継続し、英語の習得が必要なすべての児童生徒をサポートする。学校に通えない児童生徒のため、学区ではターゲットを絞り基盤のある指導とサポートなど、可能な限り遠隔ELLサービスを提供するよう努める。

- 教員は、各児童生徒の英語のレベルに合わせ、学習の継続性をサポートするため適切な指針を使用して指導内容を設計する。その際には、個々の児童生徒の英語能力を考慮する。
- ENL教員、また統合ENLコースでENL教員と合同ティーチングを行う各学科の教員は、教室内および遠隔ですべてのELLの児童生徒に指導とサポートを提供する。ENLと学科の教員は、学年レベルによって教材や指導法を変えるなど、指導しているすべての児童生徒のニーズに取り組むため協力して取り組む。

陸上競技

私たちは、全米高校スポーツ連盟（NFHS）の段階的アプローチとニューヨーク州公立高校スポーツ協会（NYSPHSAA）の推奨事項に従う。再開するには、各フェーズの間に2週間の間隔が必要となる。すべてのフェーズで、ワークアウト前のスクリーニングを行い、また記録しなくてはならない。すべてのフェーズには、個人の衛生と個人的および社会的責任に対する努力の強化が含まれる。

フェーズ 1—10名以下のグループ、器機の共有なし、ロッカールームの使用なし、屋外のみ、同じボールを1人のプレーヤーから別のプレーヤーに渡すことはできない。

フェーズ 2—野外活動では最大50名までのグループ、屋内では最大10名のグループで、低リスクのスポーツ練習または競技ができる。（クロスカントリーランニング、体操）。中程度またはハイリスクのアクティビティでは、器機を共有するのは10名以内とする。

フェーズ 3—屋内および屋外で最大50名、中程度のリスクのスポーツは、練習および競技を再開することができる。高リスクのスポーツは練習方法を変更して行う。